4号　令和６年４月１６日

＜学校教育目標＞　自ら伸びる　ともに伸びる

校長便り（職員編）

呉市立市阿賀小学校
安宗　誠

「ごん」は死んではいない！

先日，呉市教育委員会　寺本有伸教育長が，授業に向かう教師の姿勢について，次のように語っておられました。

「授業は教師の全人格をかけて行うもの。教師のよさをぶつけて行う子どもとの勝負。」

私も全く同感です。

授業は職人技です。名人の域の教師もいれば，そうでない教師もいるでしょう。それはどの職業にもあてはまることでしょう。

とは言え，「全人格をかけて行うこと」「自分のよさをぶつけて行うこと」はキャリアの多少に関係なく，やる気さえあればできることです。**授業に全人格をかけていますか？授業に自分のよさをぶつけていますか？**このことを積み重ねた先にしか見ることのできない景色があるはずです。その景色を見ることのできる教師にぜひ育ってほしいものです。

そのためには日々の準備がとても大切です。日々のことですから，時間を気にせず準備することはできません。しかし，たとえ短い時間であっても，気を付けるべきことは・・・。いろいろあるでしょうが，そのうちの１つを・・・。物語文教材「ごんぎつね」を例にしながら。

「ごんぎつね」の終末は次のようになっています。

・・・兵十は，立ち上がって，納屋にかけてある火なわじゅうを取って，火薬をつめました。そして，・・・戸口を出ようとするごんを，ドンとうちました。ごんはばたりとたおれました。・・・「ごん，お前だったのか。いつもくりをくれたのは。」ごんは，ぐったりと目をつぶったまま，うなずきました。兵十は，火なわじゅうをばたりと落としました。青いけむりが，まだつつ口から細く出ていました。

こんな書き方になっていると，「ごん」は死んでしまったと思い込んでしまいますね。しかし，実際のところは，どこにも「ごん」は死んだとは書いていないのです。もちろん，死んだと想像することもできますが，死んだと言い切ることはできません。

「ごんぎつね」の終末を扱うとき，「ごん」は死んでしまったと言ってしまうような教師であってはならないということです。

つまり，短い授業準備の時間であったとしても，本質を決してはずさない教師であるということが大切ですね。